

## 目 次

### [ 総括研究 ]

#### 1 . 病床機能の分化・連携や病床の効率的利用等のために必要となる実施可能な施策に関する研究 ( 今村 知明 研究代表者 )

A . 研究目的	1-1
B . 研究方法	1-2
1 . 定量分析班	1-2
2 . 事例統括班	1-2
3 . 地域事例班	1-2
4 . 実地検証班	1-2
5 . 議論支援班	1-2
C . 研究結果	1-2
1 . 定量分析班	1-2
2 . 事例統括班	1-2
3 . 地域事例班	1-2
4 . 実地検証班	1-3
D . 考察	1-3
1 . 定量分析班	1-3
2 . 事例統括班	1-4
3 . 地域事例班	1-4
4 . 実地検証班	1-4
E . 結論	1-5
F . 健康危険情報	1-5
G . 研究発表	1-5
1 . 論文発表	1-5
2 . 学会発表	1-5
H . 知的財産権の出願・登録状況	1-6
1 . 特許取得	1-6
2 . 実用新案登録	1-6
3 . その他	1-6

### [ 分担研究 ]

#### 2 . 【定量分析班】病床機能報告制度のより適切な報告方法についての検討 ( 松田 晋哉・石川 ベンジャミン 光一・伏見 清秀・藤森 研司 )

A . 研究目的	2-1
B . 研究方法	2-2
1 . 病床機能報告制度に係る議論	2-2
2 . より客観的な基準のための分析事例	2-2
C . 研究結果	2-3
1 . 疾患別診療行為別の分析	2-3

2 . 病床機能報告制度を活用した病院単位での分析	2-4
3 . 客観的な基準設定における課題	25
D . 考察	2-5
E . 結論	2-5
F . 健康危険情報	2-5
G . 研究発表	2-5
1 . 論文発表	2-5
2 . 学会発表	2-5
H . 知的財産権の出願・登録状況	2-5
1 . 特許取得	2-5
2 . 実用新案登録	2-5
3 . その他	2-5
3 .【事例統括班】地域医療連携や病床機能区分を推進するための優良事例調査と統括（長谷川 友紀・池田 俊也・小林 美亜・瀬戸 僚馬・野田 龍也・今村 知明）	
A . 研究目的	3-1
B . 研究方法	3-1
C . 研究結果	3-1
1 . 調査票の回収状況	3-1
2 . 回答医療機関の病床規模	3-2
3 . 回答医療機関の所在地	3-2
4 . 取り組みの種類（複数事例、複数回答）	3-2
D . 考察	3-3
E . 結論	3-3
F . 健康危険情報	3-3
G . 研究発表	3-3
1 . 論文発表	3-3
2 . 学会発表	3-3
H . 知的財産権の出願・登録状況	3-3
1 . 特許取得	3-3
2 . 実用新案登録	3-3
3 . その他	3-3
4 .【地域事例班】地域連携を基本とした疾患における熊本県の急性期、亜急性期医療需要予測（副島 秀久・町田 二郎）	
A . 研究目的	4-1
B . 研究方法	4-1
1 . 用語	4-1
2 . 研究方法	4-1
C . 研究結果	4-3
1 . 熊本県の推計患者数	4-3
2 . 熊本県の主要疾患 1 日発生数	4-3

3 . 熊本県の主要疾患別 1 日発生数の増減数	4-3
4 . 熊本県の急性期追加必要病床数	4-4
5 . 熊本県の亜急性期追加必要病床数	4-4
D . 考察	4-4
E . 結論	4-5
F . 健康危険情報	4-5
G . 研究発表	4-5
1 . 論文発表	4-5
2 . 学会発表	4-5
H . 知的財産権の出願・登録状況	4-5
1 . 特許取得	4-5
2 . 実用新案登録	4-5
3 . その他	4-5
5 .【地域事例班】脳卒中地域連携クリニカルパス分析から見える急性期、亜急性期医療プロセスの課題（副島 秀久・町田 二郎）	
A . 研究目的	5-1
B . 研究方法	5-1
1 . 用語	5-1
2 . 研究対象	5-1
3 . 研究方法	5-2
C . 研究結果	5-3
1 . A、B 群の急性期退院時 mRS 別症例数、年齢、入院回数、急性期平均在院日数、亜急性期平均在院日数、急性期 mRS、急性期感染症発症率、感染症内訳	5-3
2 . A 群における済生会熊本病院退院時 mRS 別臨床病型、B 群における済生会熊本病院退院時 mRS 別臨床病型	5-5
3 . A 群における急性期再入院例、死亡例、転退院例別の症例数、臨床病型、年齢、急性期平均在院日数、亜急性期平均在院日数	5-7
4 . A 群における急性期再入院例、死亡例、転退院例の要因	5-8
5 . A、B 群の急性期感染症発症率、急性期感染症発症例の亜急性期での感染症発症、A 群（急性期再入院例、死亡例、転退院例別）感染症発症例の急性期感染症発症既往に関するデータ	5-9
6 . A 群における急性期再入院例、死亡例、転退院例別 mRS、FIM データ	5-9
7 . A 群における転退院例の患者転帰別データ	5-10
8 . B 群における FIM 改善ありなし平均在院日数	5-11
9 . B 群における mRS 別、在院日数別 FIM 改善ありなし平均在院日数	5-11
10 . B 群における mRS 別、在院日数別 FIM 推移	5-12
11 . B 群における mRS 別、在院日数別転帰	5-13
12 . B 群における入院後 2 ヶ月間 FIM 改善なし症例とあり症例の比較と転帰	5-14
13 . 急性期退院時 mRS、亜急性期入院時 FIM、亜急性期 FIM 到達レベルの関係	5-15

D . 考察	5-16
E . 結論	5-18
F . 健康危険情報	5-18
G . 研究発表	5-18
1 . 論文発表	5-18
2 . 学会発表	5-18
H . 知的財産権の出願・登録状況	5-18
1 . 特許取得	5-18
2 . 実用新案登録	5-18
3 . その他	5-18
6 .【地域事例班】病床の機能分化と連携の推進に向けた取り組み（小林 美亜）	
A . 研究目的	6-1
B . 研究方法	6-1
C . 研究結果	6-1
1 . 千葉保健医療圏の医療需要	6-1
2 . 千葉保健医療圏の取り組み事例	6-2
D . 考察	6-3
E . 結論	6-4
F . 健康危険情報	6-4
G . 研究発表	6-4
1 . 論文発表	6-4
2 . 学会発表	6-4
H . 知的財産権の出願・登録状況	6-4
1 . 特許取得	6-4
2 . 実用新案登録	6-4
3 . その他	6-4
7 .【実地検証班】地域医療構想の実現に資する各種ツールの実地検証（今村 知明・野田 龍也・渡辺 顕一郎・和家佐 日登美・西本 莉紗恵・吉井 克昌）	
A . 研究目的	7-1
B . 研究方法	7-1
1 . 病院プロット地図	7-1
2 . 患者重複指数	7-2
3 . 地域間流出入	7-2
4 . 疾病別アクセス分布	7-2
5 . 傷病別の必要病床数推計	7-2
C . 研究結果	7-2
1 . 病院プロット地図	7-2
2 . 患者重複指数	7-2
3 . 地域間流出入	7-2
4 . 疾病別アクセス分布	7-3

5 . 傷病別の必要病床数推計	7-3
D . 考察	7-3
1 . 病院プロット地図	7-3
2 . 患者重複指数	7-3
3 . 地域間流出入	7-3
4 . 疾病別アクセス分布	7-3
5 . 傷病別の必要病床数推計	7-4
E . 結論	7-4
F . 健康危険情報	7-4
G . 研究発表	7-4
1 . 論文発表	7-4
2 . 学会発表	7-4
H . 知的財産権の出願・登録状況	7-5
1 . 特許取得	7-5
2 . 実用新案登録	7-5
3 . その他	7-5
8 .【実地検証班】地域医療構想の推進に資する急性期指標の開発（今村 知明・野田 龍也）	
A . 研究目的	8-1
B . 研究方法	8-1
1 . 項目選定	8-1
2 . 項目の縮約	8-1
3 . 病床規模の補正	8-2
4 . スコアの標準化	8-2
5 . 合算による急性期指標の作成	8-3
C . 研究結果	8-3
D . 考察	8-3
E . 結論	8-5
F . 健康危険情報	8-5
G . 研究発表	8-5
1 . 論文発表	8-5
2 . 学会発表	8-5
H . 知的財産権の出願・登録状況	8-5
1 . 特許取得	8-5
2 . 実用新案登録	8-5
3 . その他	8-6
9 . 成果の刊行に関する一覧表	9-1
10 . 研究成果の刊行物・印刷	10-1